

製品名: Tie-2 (リン酸化 Tyr1108) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05557**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	150kDa

抗原情報

遺伝子名	TEK
別名	TEK; TIE2; VMCM; VMCM1; Angiopoietin-1 receptor; Endothelial tyrosine kinase; Tunica interna endothelial cell kinase; Tyrosine kinase with Ig and EGF homology domains-2; Tyrosine-protein kinase receptor TEK; Tyrosine-protein kinase receptor
遺伝子 ID	7010.0
SwissProt ID	Q02763
免疫原	抗血清は、ヒト TIE2 の Tyr1108 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1074-1123

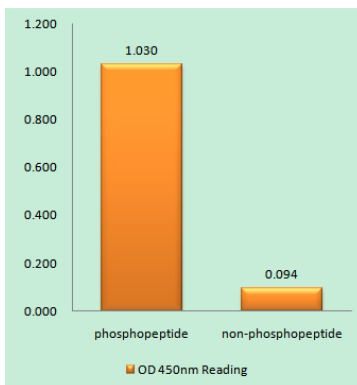
背景

この遺伝子は、タンパク質チロシナーゼ Tie2 ファミリーに属する受容体をコードしています。コードされているタンパク質は、2つの免疫グロブリン様ドメイン、3つの上皮成長因子 (EGF) 様ドメイン、および3つのフィブロネクチン III 型リピートを含む独自の細胞外領域を有しています。リガンドであるアンジオポエチン-1はこの受容体に結合し、胎児の血管発達に機能するシグナル伝達経路を媒介します。この遺伝子の変異は、皮膚および粘膜の遺伝性静脈奇形と関連しています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生じます。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが他にも報告されていますが、その全長は不明です。 [RefSeq 提供、2014年2月],触媒活性: $ATP + a [タンパク質]-L-チロシン = ADP + a [タンパク質]-L-チロシリン酸$ 。疾患: TEK の欠陥は、優性遺伝性静脈奇形 (VMCM) [MIM:600195]の原因です。VMCMは、拡張した蛇行したチャネルを特徴とする血管形態形成の異常です。機能: このタンパク質は、アンジオポエチン 1 のタンパク質チロシナーゼ膜貫通受容体です。哺乳類の内皮細胞系譜における最古のマーカーである可能性があります。おそらく、血管形成中の内皮細胞の増殖と分化を制御し、適切なパターン形成を誘導します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属する。Tyr タンパク質キナーゼファミリー。Tie サブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。類似性: 2つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含む。類似性: 3つのEGF様ドメインを含む。類似性: 3つのフィブロネクチン III 型ドメインを含む。組織特異性: 主に内皮細胞とその前駆細胞である血管芽細胞に発現する。胎盤と肺に直接発現しており、臍帯静脈内皮細胞、脳、腎臓にも低レベルで存在する。

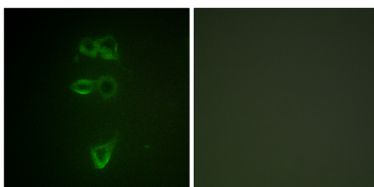
研究分野

血管新生

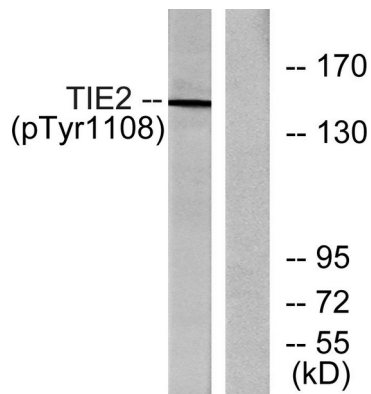
画像データ



TIE2 (リン酸化 Tyr1108) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



TIE2 (リン酸化 Tyr1108) 抗体を用いた HepG2 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3細胞ライセートのTIE2（リン酸化Tyr1108）抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。